

平成26年度愛知県がんセンター公開講座(第2回)のご案内
「がん患者及びその家族への支援～緩和ケアと患者サロンについて～」
= 平成26年7月19日(土)開催 =

〈 講師からのメッセージ 〉

「がん診療における緩和ケアの位置づけ」

がん診療というと、皆さんはおそらく手術や抗がん剤治療、放射線治療のことをイメージされると思います。その中で最近「緩和ケア」という言葉を様々な場面でお聞きになることもあおりかもしれません。皆さんは「緩和ケア」にどのような印象をお持ちでしょうか？

「緩和ケアなんて私にはまだ早い」「緩和ケアは関係ない」そう思われる方も多いかもしれません。がんに限らず病気になると様々なつらさや苦痛が生じ、それにより日常生活や仕事などに様々な影響がでることがあります。緩和ケアではできるだけ様々な苦痛を減らし、軽くし、できればなくすことができるためのお手伝いをさせていただきたいと思っています。

がん診療であろうが普段の診療であろうが、どの病気どの場面でも、本来緩和ケアは提供されるものなのです。

緩和ケア部 医長 下山 理史

「患者と家族のチカラをひきだす患者サロン」

私たちは、病院で患者さんと医療者として出会いますが、患者さんは生活者、社会人としての歴史を歩まれており、ご家族と共にあります。私たちは患者さんとしての一側面だけでなく、患者さんや大切なご家族をとりまくすべてのことを含めて支援者である必要性を感じています。がんに伴って生じる悩みは様々であり、窓口となって相談できる場所、共有できる場所はもっと開かれていいはずです。当院では昨年より患者さんとご家族のための交流の場として、「患者サロン」を開催しています。人と人との交流は支えとなり、大きな力となっていきます。その取り組みについて知っていただければと思います。

緩和ケア 認定看護師 深谷 恭子

「患者さんもお家族も、ともに大切にする緩和ケア」

家族誰かが病気になったとき、誰しも心配しますし、悩みますよね。でも、家族だから、支えなきゃ、家族だから頑張らなきゃ、患者さんにつらい姿を見せてはいけない、そう思っているご家族も多いかと思います。緩和ケアでは、患者さんご自身の辛さを和らげることはもちろんですが、同時にご家族の辛さも和らげることができるといいなと思っています。

私たちは、患者さんだけでなく、ご家族も、場合によってはご友人、会社の同僚なども同じように大切にしたいと思っています。

緩和ケア部 医長 下山 理史